

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1
売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 水産課水産しまね振興室長 安木 茂 電話番号 0852-22-5740

事務事業の名称	栽培漁業センター管理運営委託事業		
目的	(1) 対象	漁業者	
	(2) 意図	種苗生産業務の民間委託を実施することで、種苗生産の効率化と安定化を実現し、栽培漁業の振興による水産資源の増加と漁業経営の安定化に貢献する。	
事業概要	種苗生産業務を（公社）島根県水産振興協会に委託する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 種苗生産尾数	目標値		212.0	212.0	212.0	212.0	万尾
		取組目標値			302.0	302.0	302.0	
	式・定義 種苗生産尾数（マダイ・ヒラメ・イワガキ）	実績値	226.3	336.9	299.0			
		達成率	-	159.0	99.1			
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	110,305	100,909
うち一般財源 (千円)	71,501	71,514

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

- ・マダイ、ヒラメは、目標値であるマダイ65万尾、ヒラメ37万尾の種苗を生産した。
- ・一方、イワガキは必要餌料量の培養不足、沖出し後の食害の影響により取組目標値の200万個を下回る生産となった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・ヒラメについて、無眼側黒化の出現率の低減が図られた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・マダイ種苗生産初期における初期餌料を起因とする大量へい死
- ・備品や平成21～22年度に実施した大規模改修の対象外施設の破損・故障の発生

②困っている状況が発生している「原因」

- ・基本的な技術移転は完了したが、突発的に発生する疾病により生産の好不調がある
- ・備品や大規模改修の対象外施設の耐用年数が超過し、老朽化が顕著となっている

③原因を解消するための「課題」

- ・生産不調時における県の技術的支援
- ・備品更新計画および修繕計画を検討し、必要費用の確保

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・種苗生産状況について、水産振興協会との連携のもと情報共有し、生産不調時には迅速に対応できるサポート体制を整える。
- ・管財課が策定した維持保全計画に基づき計画的に修繕を進めるとともに、備品についても更新費用の確保に努める。